



イタリアの名門、ヴェルディ2作品を初演したゆかりの劇場!

トリエステ・ヴェルディ歌劇場

FONDAZIONE TEATRO LIRICO GIUSEPPE VERDI DI TRIESTE

全3幕

(原語上演・日本語字幕付き)

演奏: トリエステ・ヴェルディ歌劇場管弦楽団/合唱団

G.ヴェルディ

「椿姫」

G.VERDI "LA TRAVIATA"

【指揮】

ジャンルカ・マルティネンギ

【演出】

ジュリオ・チャバッティ



【アルフレード】
ブラゴイ・ナコスキ



©Victor Santiago

【ヴィオレッタ】
ジェシカ・ヌッチオ



【ジェルモン】
イタロ・プロフェリーシェ

2019年10月26日[土] 開演時間 17:00

ザ・ヒロサワ・シティ会館 大ホール

主催: 茨城県/公益財団法人いばらき文化振興財団

全席指定
S席 10,000円(9,000円) A席 8,000円(7,200円)
B席 6,000円(5,400円) 学生席 1,000円(割引なし)

※()内は友の会料金です。但し、ザ・ヒロサワ・シティ会館及び取扱店でのみの取扱いとなり、他のプレイガイドでは適用いたしません。
※未就学児入場不可。学生席は、大学生以下となりザ・ヒロサワ・シティ会館でのみの取扱いとなります。
※託児サービス(要予約)1,000円(税込)10月21日(月)までに予約してください。

ご予約・お問合せ ザ・ヒロサワ・シティ会館 TEL.029-241-1166

電話予約 友の会/6月17日(月)8:30~ 発売 6月25日(火)
一般/6月18日(火)8:30~

【チケット取扱店】

ザ・ヒロサワ・シティ会館・MUSIC SHOPかわまた・水戸京成百貨店
ヤマハミュージックリテイリング水戸店・茨城県庁生活協同組合
チケットぴあ (Tel.0570-02-9999 <http://t.pia.jp/>)
イープラス (<http://eplus.jp/>)

オペラ鑑賞講座 オペラの魅力について解説します

全席自由
入場無料
要整理券

2019年10月26日[土] ◎定員/386名
◎時間/15:00~(60分程度)
ザ・ヒロサワ・シティ会館 小ホール ◎講師/白井英男 先生(茨城大学名誉教授)

整理券配布場所 ザ・ヒロサワ・シティ会館・MUSIC SHOPかわまた・水戸京成百貨店
ヤマハミュージックリテイリング水戸店・茨城県庁生活協同組合

お問合せ先 ザ・ヒロサワ・シティ会館 TEL.029-241-1166

G.ヴェルディ「椿姫」

指揮 ジャンルカ・マルティネンギ / 演出 ジュリオ・チャパッティ

全3幕

原語上演・日本語字幕付き



最高の歌手を得て、すべてを備えたオペラのすべてが引き出される!

《椿姫》にはすべてがある。私たちが人生を通じて味わう喜びも、苦悩も、救いもすべてが詰まっていて、終幕まで観る人の心を揺さぶり続けるのだ。イタリアでは「《椿姫》は豚だ」といわれる。肉から内臓や耳まですべてが美味しく食べられ、残すところがないという意味である。

ヒロインのヴィオレッタはバリの高級娼婦で、彼女に恋い焦がれるアルフレードへの真実の愛に目覚める。だが「汚れて」いるがためにブルジョワ社会から拒まれた挙句、結核で若い命を落とす。こう

して悲劇へと向かう彼女の心の履歴が、名旋律を通じて聴き手の胸に生々しく届けられるのだ。華麗なコロラトゥーラで表された恋の芽生えには、胸のときめきを、恋人の父に強いられて自己犠牲を決める二重唱の心の移ろいには、涙を強いられ、死を前にしての心の叫びに、ますます涙を誘われる。ほかにもアルフレードや父ジェルモンのアリアなど、なにもかもが味わい深い。

だが、《椿姫》の凝縮した魅力を引き出すには、華麗な表現から劇的な心の叫びまでを歌い描ける卓越したソプラノが欠かせない。その一人としてヨーロッパで台頭著しいのがジュシカ・スッチオだ。《椿姫》が初演されたフェニーチェ劇場で、まさに《椿姫》でデビューしたという事実が、その実力と今後への期待を物語っている。洗練された美声のブラゴイ・ナコスキのアルフレード、情熱的なイタロ・プロフェリーシェのジェルモンが加わって、極上の《椿姫》が約束されている。



イタリアとウィーン、それぞれの強みを併せ持つ名門歌劇場



イタリア東端の国境の港町、トリエステ。イタリアに併合されたのは1918年で、長くハプスブルク家の支配下にあったが、その間もこの町の人たちは、自らがイタリア人であると強く認識してきた。この歴史的な二重性は、こと文化の上ではトリエステの大きな強みになっている。オペラ発祥の地であるイタリアの伝統と誇りを保ちながら、音楽の都ウィーンの養分も吸い続けてきたからである。

その象徴がヴェルディ歌劇場だ。落成したのは1801年、ミラノのスカラ座によく似た正面と世界有数の華やかな内装を誇るが、それも当然で、スカラ座を生んだ建築家ピエール・マリニが設計に携わり、ヴェネツィアのフェニーチェ劇場の設計者だったセルヴァが内装を手がけた。もちろんヴェルディと縁が深い。《イル・コルサーロ(海賊)》と《ステイツフェーリオ》の2作が初演され、ヴェルディの死後、歌劇場は巨匠の名を冠することを許されている。その後、ジューリ、デル・モナコ、カラス、テバルディ……と、綺羅星のごとき歌手たちが名演を繰り広げてきた。もろもろの伝統は、そのままに受け継がれている。



ジャンルカ・マルティネンギ(指揮)

音楽の緻密な構成とドラマティックな味つけに長けた、イタリアの指揮界の俊英。マルティネンギが指揮するヴェルディやプッチーニのオペラには、いつもイタリアの風が吹く。オーケストラからも歌手からも信頼も厚い。

キャスト



【ヴィオレッタ】ジュシカ・スッチオ

数々のコンクールで優勝後、《椿姫》が初演されたヴェネツィアのフェニーチェ劇場で2011年、まさにヴィオレッタ役でデビューしたスッチオ。コロラトゥーラとドラマティックな表現が両立し、超高音にもストレスなく届く、今後のイタリア・オペラ界を背負う美貌のソプラノ。



【アルフレード】ブラゴイ・ナコスキ

マケドニア・スコピエ音楽家の家系に生まれ、のちにイタリアへ渡りローマとフィレンツェで学ぶ。2003年ローマ歌劇場でダニエル・オーレン指揮《ランメルモールのルチア》アルトゥーロでオペラ・デビュー。現在ではミラノ・スカラ座やフィレンツェ歌劇場など、イタリアの主要劇場で歌いながら国際的な活動を広げている。



【ジェルモン】イタロ・プロフェリーシェ

2012年のデビュー以来、ズーピン・メタヤネッロ・サンティなどの世界的指揮者と共演。《ラ・ボエーム》マルチェッロ、《フィガロの結婚》フィガロ、《蝶々夫人》シャープレスなどを世界各地で歌い、称賞を得ている。フィレンツェ・新オペラ劇場のメータ指揮のこけら落としオペラ・ガラ公演にも《オテロ》モンターノ役で出演。

※キャストの一部が変更になる場合がございますので、予めご了承ください。

作品・キャスト・劇場紹介 オペラ評論家 香原斗志
舞台写真: ©fabio parenzan

入場券ご購入にあたり、次のことをあらかじめご承知おき下さい。

- ①やむを得ない事情で出演者が変更になる場合がございます。最終的な出演者は当日発表とさせていただきます。
- ②お買い求めいただきましたチケットのキャンセル・変更はできません。
- ③開演時間に遅れた場合、休憩までご入場をお待ちいただく場合がございます。余裕を持ってご来場ください。
- ④場内での写真撮影、録音、録画は固くお断りします。
- ⑤未就学児のご入場はご遠慮ください。
- ⑥ネットオークションなどによるチケット販売は、トラブルの原因になりますのでお断りいたします。